
短編小説集

黒鋼 朝陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編小説集

【Nコード】

N0186Y

【作者名】

黒鋼 朝陽

【あらすじ】

俺が書かせて頂いた短編小説をここに乗せることにしました。良ければ読んでください。

*一部の短編小説はここに載せていません。

夏の夜

夏の夜

ねえ、キミは覚えている？

出逢った夏の日の事を

あの日の夜、空はすっかり闇に包まれていて
お化けが出そうとワタシは思った

チカチカと闇に包まれた空に光る花火を
綺麗だと思ったあの日の夜
ワタシは人生初の迷子になった

母を探しても見つからなくて
涙を流したワタシ
赤い頬に伝う涙を
指ですくったのはキミだった

手を引いて母と一緒に探してくれたけど
結局全然見つからなくて
また赤い頬に涙が伝った
キミはそんなワタシを見て
ある場所に連れて行ってくれた

そこは花火が綺麗に見えるとおきの場所で
ワタシも自然と笑顔になった
そんなワタシを見たキミも

一緒になつて笑顔になつた

花火大会が終わつて母がこちらに駆け寄ってきた
叱られたけれど隣のキミを見ると
ニツコリ笑顔になつた

キミが母の友人の息子と知つて
とても驚いたワタシ
それを見たキミは
意地悪そうにはにかんでいた

そしてワタシとキミは
一緒にいるようになっていた
そんなワタシたちの様子を見た母たちは
冷かしてワタシたちの反応を楽しんでいた

でも

キミはもうワタシの隣には居ない
例え近くに居たとしても

キミの隣にいるのはワタシじゃなくて別の女性

いい加減一人立ちしなきゃと思つても
眼を閉じればキミの姿が浮かぶ

ワタシは寂しいと静かに呟いて
キミと二人で写っている写真盾を
カタンと音をたてて伏せた

夏の夜（後書き）

以前に投稿した短編小説をここに改稿しました。
なので以前のものは消してあります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0186y/>

短編小説集

2011年10月29日15時23分発行